



## 平成31年度 当初予算主な事業

事業名	農地の有効利用モデルプロジェクト		
予算額	100	千円	新規・拡充 継続の別
事業内容	<p>継続</p> <p>○ 目的</p> <p>平成22年度より農業委員会の法令業務となった耕作放棄地対策の一環の取り組み。 農地の有効利用実証ほ場を設置し、農地利用の最適化の推進を図る。</p> <p>○ 事業概要</p> <p>遊休農地を農業委員会が「農地の有効利用モデルほ場」として整備し、苗の定植、日常の管理を行うことで、市内の農家に有効利用を呼び掛け、一般世帯には、農業の魅力を発信することで、耕作放棄地の解消、農地の有効利用に繋げ、また、一般世帯を含め農業への関心の喚起を諮る。</p> <p>肥料、薬品代：約100,000円</p> <p>○活動事例</p> <p>平成25年3月に興戸地区の遊休農地14㍍を重機で整備した後、レモンの苗木60本を定植し、「レモンプロジェクト」として始動。日常の維持管理（除草、施肥、水やり）には農業委員自らあっている。平成25年12月に、地元中学校美術部作成のPR看板の設置し、マスコミ等に広くアピールを行った。</p> <p>平成27年3月に「レモンプロジェクト」の第2弾で三山木地区の遊休農地13㍍にジャバラの苗木90本を定植し、「ジャバラプロジェクト」としても始動。</p> <p>平成26年度から委員と一緒に実証ほ場の管理等を行う、レモン（市民）サポーター（平成30年10月19日現在、登録は11名）の募集を行い、委員と一緒に活動を行ったり、平成28年度には、レモンサポーター、同志社女子大学の学生と一緒に加工品の試作に取り組み、産業祭で振るまいも行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>		
担当所属名	農業委員会事務局	直通電話番号	64 - 1368

## 平成31年度 当初予算主な事業

事業名	のうぎょう委員会だよりによる広報事業		
予算額	325	千円	新規・拡充 継続の別
継続			
事業内容	<p>○ 目的</p> <p>農地の適正な利用（耕作放棄地及び違反転用発生防止に向けた啓発活動）、農業の活性化（利用権、農地バンク制度、農地耕うん作業受委託制度の周知活動）、法改正の周知、委員会活動の可視化を図る。</p> <p>○ 事業概要</p> <p>年度内に3回の発行を目指し、広報アイデア委員会の委員が中心となり編集作業、取材等を行い、充実した紙面作りを目指す。 また、ホームページを活用し、鮮度の高い情報発信を図る。</p> <p>印刷製本代（年3回×4,500部）： 325千円</p> <p>○活動事例</p> <p>平成23年度までは、年2回の発行。 平成24年度からは、年3回の発行。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>		
担当所属名	農業委員会事務局	直通電話番号	64 - 1368